

1 共進会を通した畜産学生に対する担い手育成の取組

中部家畜保健衛生所

○木本結貴・伊藤博志

第12回全国和牛能力共進会（全共）から、担い手育成を目的に、農業高校や農業大学校（学校）による出品区（特別区）が新設された。全共の取組を受け、翌年の令和5年度は各地区主催共進会等を通じて、学生などの若い担い手に対し、一層の飼養管理技術向上や改良意欲の醸成を図るとともに、和牛振興に向けた取組を支援した。

1 第12回全共時の課題と成果

新型コロナウイルス感染症の影響により、広報活動や集団活動に多くの制限を受け、十分な取組ができなかった。その中で管内から種牛・肉牛の部に6戸、特別区に1校の計16頭が全共予選へ取り組み、3戸1校が県代表として全共へ出品された。その結果、関係者一丸となった支援体制が構築され、地域の連携が強化された。

2 畜産学生への支援

1) 目的

地区共進会及び県共進会へ出品するための牛の手入れや調教を通し、飼養管理が牛に及ぼす効果を学ぶとともに、牛と人とのつながりを通じ、学生等が畜産に対する理解をより深めることを目的に、家保と学校が連携しながら指導を行った。

2) 取組

管内の学校2校に対し、牛の手入れや調教指導を支援した。指導は外部講師を招聘し、実際に生徒が実習として実演する形式をとった。

また、家保は、学校での子牛登記や和牛登録に同行し、審査や指導補助をする中で、牛群の発育状況を確認しながら、学生に対し共進会に向けた飼養管理指導を行った。

学生の参加により、共進会場は活気付き、先輩農家との交流が生まれ、アドバイスをもらう場面も見られた。また、現在管内農場に就農している学校の卒業生に対して、同様に出品に際し助言と指導を行った。彼らの出品が地域の農家や学生等にとって良い刺激となり、出品への機運がさらに高まった。

3) 成果

共進会という期限が区切られた中での飼養管理が牛に及ぼす変化を目の当たりにし、学生の牛に対する理解醸成とさらなる技術研鑽への意欲高揚が見られた。学校出品牛は、県共において若牛3区で優等賞2席を受賞することができた。

3 次回全共に向けた取組支援

今後も学校と連携し、地区の共進会での指導だけでなく、特別区での取組においても助言者として技術支援を行うなど、担い手育成につなげていきたい。また、全共中部地区対策協議会においては2校を新たに構成員に加えた。学校に対する全共への支援体制がより充実したものとなるよう再構築を図っていきたい。